

谷津田の鳥入門

木下順次（千葉市）

日 時：2015年12月6日(日)10時30分～12時 天候：快晴

参加者：大人8名 子ども2名

担当指導員：藤田英忠・木下順次

さまざまな色彩・形態で見る者の目を楽しませてくれる野鳥たち。大きさや飛び方、どのあたりにいるか慣れてくると探すポイントもわかりやすく、なんととってもその鳴き声が聞こえれば姿は見えなくとも林間で忙しく動き回っているのだろうと想像がつきます。「大草谷津田いきものの里にもそんな野鳥たちがたくさんいるんですよ！」ということをお伝えたくて毎年この季節には野鳥観察をテーマにしているのですが・・・。

野鳥観察会のむつかしさを実感した一日となりました。というのも、まったく野鳥が姿を見せない！より豊富なエサ場をもとめて移動するその行動エリアはどれくらいの範囲に広がっているのでしょうか？朝方は聞こえていた鳴き声は今や園路からはかすか遠くにしか聞こえず、林間を飛び交う姿もじっと観察する間もなく一瞬しか見えません。天気は良く気温もそんなに低くない穏やかな日だというのに・・・。

大草谷津田いきものの里は、広場からすぐ杉林の中を下って園路の中に入っていきます。野鳥の姿も最初は目が慣れずに見つけられないこともよくあることです。だから「まずは鳥の鳴き声を耳を澄ませて聞いてみましょう。姿は見えなくても鳴き声でどんな鳥がいるかわかるんですよ」という風に、いつも鳴き声を聞くことの大切さを解説してから観察会を始めます。ところが鳴き声も遠くで一鳴きだったり、姿もほんの一瞬であったりとなかなかみんなでお観察というところまでに至りません。みんながシーンとしながら林間を進む中、方針を変えて手持ちのガイドブックやイラスト集などで見られるはずの野鳥を解説しながら進むことにしました。

鳥の姿を求めて、普段の順路を離れてみました。住宅地のへりに沿って墓地や畑のあるあたりを進みますと、少しづつ鳴き声や姿を見られる鳥も出てきました。頭上の枯れた梢ではシジュウカラ、エナガ、メジロ、ヤマガラの混群が鳴きながらせわしく行き来していたり、畑を耕している人間の上を

カラヒワやキジバトが明るいとこをめぐり飛んでいたりしています。冬の乾燥した空気の中、意外と大きな富士山がきれいに見える富士見スポットを案内しつつ、元の順路に戻りました。

コース終盤の下畑の雑木林では、オオタカが長い尾羽と小さめの体で樹幹を縫うように飛び去る姿を垣間見ることができ、これには驚きました。

参加の皆さんは、それでも紅葉の美しい初冬の谷津田や、初めてのバードウォッチングでたくさんの種類の鳥がいることが分かったなど楽しんでいただけただけようで、少しホッとしました。

“いやあ、本当に野鳥観察会は出たとこ勝負！”

でも、観察会運営の良い勉強となる一日でした。

目	科	種名
ハト目	ハト科	キジバト
タカ目	タカ科	オオタカ
スズメ目	モズ科	モズ
	カラス科	ハシブトガラス
	シジュウカラ科	ヤマガラ
		シジュウカラ
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ
	ウグイス科	ウグイス
	エナガ科	エナガ
	メジロ科	メジロ
	ヒタキ科	シロハラ
セキレイ科	ハクセキレイ	

11科12種(鳴き声のみ含む)